

袋井のびやか保育園 自己評価

		2024年度		2023年度	
		現在の取組及び状況	判定	現在の取組及び状況	判定
		今後の改善計画・目標		今後の改善計画・目標	
保育内容					
全体的な計画の作成					
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	保育の理念、基本方針、保育目標に基づいて全体的な計画を作成している。	A	保育の実態や、子どもの状況、発達段階を踏まえ全職員で共通理解をし、保育の質の向上を目指していく。	保育の実態や、子どもの状況、発達段階を踏まえ全職員で共通理解をし、保育の質の向上を目指していく。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開					
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	子どもが安全で安心して過ごせる環境整備に配慮し、定期的な点検し、清潔に保っている。危険箇所がある場合は職員で周知し、速やかに改善するようにしている。	A	ヒヤリハットの事例を必ず職員間で共通認識し、安全で清潔な場をつくるよう心がけていく。ヒヤリハット報告書の様子をさらに見やすく改善したい。	子どもが安全で安心して過ごせる環境整備に配慮し、定期的な点検し、清潔に保っている。危険箇所がある場合は職員で周知し、速やかに改善するようにしている。
2	一人ひとりの子どもを愛着し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	アタッチメントの形成を目指して一人一人の子どもと愛着・信頼関係を築けるよう、1対1で丁寧に関わる時間や、園が心の安全基地に感じられるよう、子どもの思いを受け止めたり、応答的な関わりを大切にしている。	A	保育園が好き、明日も来たいという気持ちが持てたり、安定した気持ちで過ごせるよう子どもひとりひとりに保育士が明るく愛情豊かに関わる保育を引き続き基本としていく。	一人一人の子どもと愛着・信頼関係を築けるように、1対1で丁寧に関わる時間や、園が心の安全基地に感じられるよう、子どもの思いを受け止めたり、応答的な関わりを大切にしている。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	基本的な生活習慣が身につけられるよう、環境の整備や子どもの動線に合わせた職員配置と、一人一人の発達や意欲に応じた援助等を心がけている。	B	生活環境を整え、職員配置がよりスムーズに対応できるよう工夫しているが、個別への援助が行き届かない点もあるため、職員間で声をかけながら対応していきたい。	基本的な生活習慣が身につけられるよう、環境の整備や子どもの動線に合わせた職員配置と、一人一人の発達や意欲に応じた援助等を心がけている。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	子どもの興味や関心に応じた様々な遊びを用意している。保育者や友だちと関わりながら活動ができていく。子どもたちの主体性をさらに伸ばしていきたい。	B	より子どもが主体的に好きな遊びを自由に自ら選び取れるよう、玩具を定期的に見直ししたり、のびのびとじっくり自分の遊びに夢中になれる環境構成、子ども同士の距離に気を付けたい。	子どもの興味や関心に応じた様々な遊びを用意して、保育者や友だちと関わりながら活動ができていく。子どもたちの主体性をさらに伸ばしていきたい。
5	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分に把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている。	A	子どもの興味や関心をより高めているよう適切な環境を整備し保育の内容や方法を常に全職員で考えていく。	子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分に把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている。
6	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分に把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている。	A	子どもの自我の育ちを支えられるよう、適切な環境を整備し保育の内容や方法を常に全職員で考えていく。	子ども一人一人の心身の発達や興味・関心を十分に把握した上で、それに沿った保育内容の計画をし、個別の援助方法を考えながら保育を行っている。
7	それぞれの子どもが在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	子どもの状況を把握した上で利用時間の長い子には1対1で関わりようにし安心感を持たせているが、特に今年度は利用時間が長い0歳児の人数が多いこともあり、保育内容はさらに配慮が必要である。	B	異年齢の関わりや場であるため、安全に遊べる環境に配慮したり、長時間保育が必要な子の保育内容についてさらに工夫していく。	子どもの状況を把握した上で利用時間の長い子には、1対1の関わりを大切に保育し、安心感を持たせている。
健康管理					
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	登園時の視診、保育中の体調観察、毎日3回検温を行うなど、一人一人の健康観察をしっかりと行っている。	A	その日の子どもの体調や機嫌等を職員間で把握しながら、健康管理を適切に行っていく。	登園時の視診、保育中の体調観察、毎日3回検温を行うなど、一人一人の健康観察をしっかりと行っている。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	健診等の結果や、一人ひとりの体質・健康状態の把握が職員間で周知されている。	A	引き続き、把握して保育に反映させる。	健診等の結果や、一人ひとりの体質・健康状態の把握が職員間で周知されている。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	生活管理表やアレルギー対応マニュアルに沿った対応を職員全員が理解して行い、アレルギー児が安全に食事ができるように配慮している。また、研修に参加し知識を深めた。	A	今後もアレルギー対応の研修会等に参加し、正しい知識を全職員が理解して適切に対応ができるようにする。	生活管理表やアレルギー対応マニュアルに沿った対応を職員全員が理解して行い、アレルギー児が安全に食事ができるように配慮している。また、研修に参加し知識を深めた。
食事					
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	食べることが楽しいと思える経験を積み重ねられるよう関わりを大事にしている。野菜に実際に触れてみたり、クッキングや行事食を食べることを日頃の保育計画に組み入れている。	A	引き続き、日々の食事や、野菜の収穫、クッキングなどをみんなで一緒に楽しめるようにする。	食べることが楽しいと思える経験を積み重ねられるよう関わりを大事にしている。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	衛生管理の徹底や、個々の発達に応じた調理形態に配慮した食事の提供ができていく。	A	栄養士、調理師、保育者が連携して衛生管理に努め、安心な食事を提供できるようにする。	衛生管理の徹底や、個々の発達に応じた調理形態に配慮した食事の提供ができていく。
子育て支援					
家庭との緊密な連携					
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	おうちえん、園だより、クラスだよりを発行して、園での活動の様子を知らせたり、毎日の送迎時、連絡帳等で個々の子どもの姿や育ちを伝え合っている。	A	今後も様々な機会を活用し、子供の成長を共に喜べる関係性を築いていく。	園だより、クラスだよりを発行して、園での活動の様子を知らせたり、毎日の送迎時や、連絡帳等で個々の子どもの姿や育ちを伝え合っている。
保護者等の支援					
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	個人面談など保護者からの相談に常に応じ、それぞれの家庭との信頼関係を大事にしている。明るい挨拶や笑顔を手掛かり、どの職員でも話がしやすい園の雰囲気を作っている。	A	個人情報を守りつつ、保護者の個々の状況を全職員で把握して、状況に合わせた子育て支援を行っていく。	個人面談など保護者からの相談に常に応じ、それぞれの家庭との信頼関係を大事にしている。明るい挨拶や笑顔を手掛かり、どの職員でも話がしやすい園の雰囲気を作っている。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	虐待防止マニュアルの共通理解をした上で、毎日着替えやおむつ交換の際に子どもの体に異変がないか視診をしたり、不安感や表情など心面や行動なども注意して見るようにしている。	A	引き続き、子どもの心身の状態や保護者の養育状況を全職員で把握し、虐待等権利侵害の防止に努めていく。	虐待防止マニュアルの共通理解をした上で、毎日着替えやおむつ交換の際に子どもの体に異変がないか視診をしたり、不安感や表情など心面や行動なども注意して見るようにしている。
保育の質の向上					
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	定期的な保育セルフチェック等を行い、保育の振り返りや改善に努めたり、園内研修を進めている。職員間の話し合いの時間の確保を工夫して行っているが全職員の参加が難しい時もあり、共通理解の仕方が課題である。	B	引き続き園内研修の時間確保、外部研修への積極的な参加をしていく。職員間の共通理解の方法について対策が必要がある。	定期的な保育セルフチェック等を行い、保育の振り返りや改善に努めたり、園内研修を進めている。職員間の話し合いの時間の確保が難しく、課題である。